

経営比較分析表（令和3年度決算）

香川県三豊市 西香川病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
指定管理者(利用料金制)	3	-	ド訓	臨
人口(人)	建物面積(m ²)	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
63,195	11,789	非該当	非該当	20:1

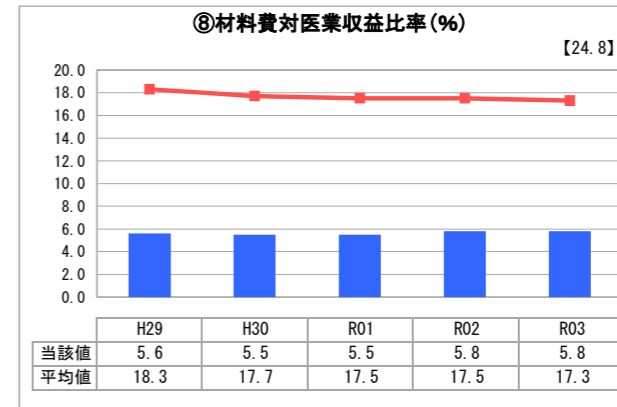
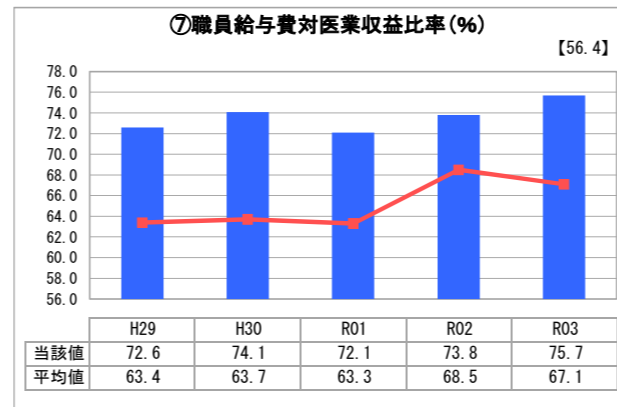
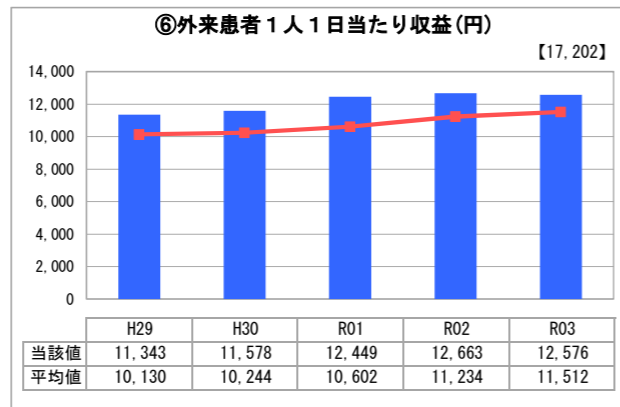
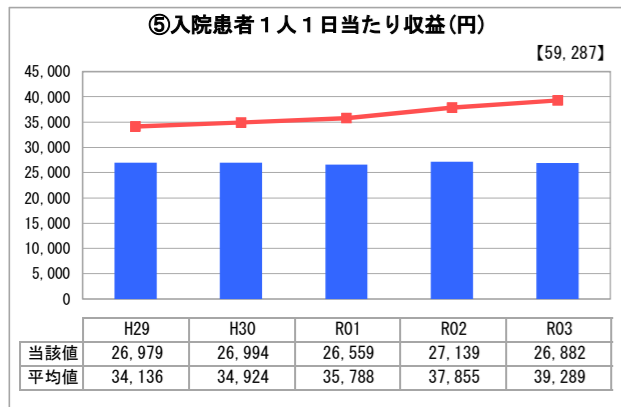
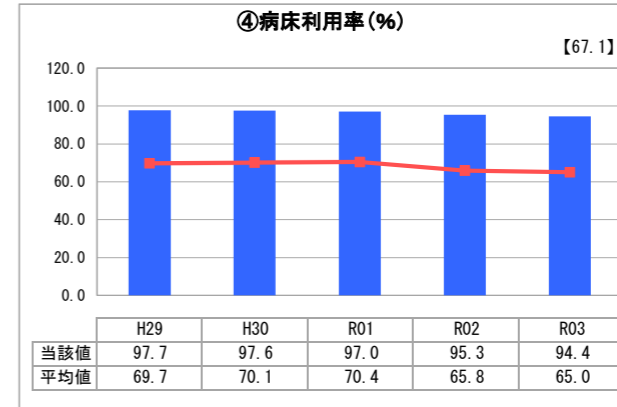
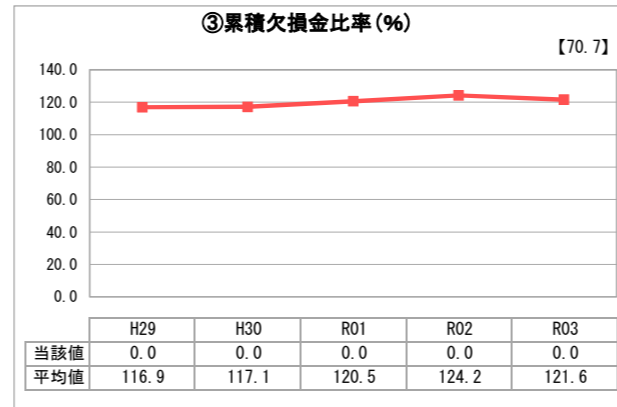
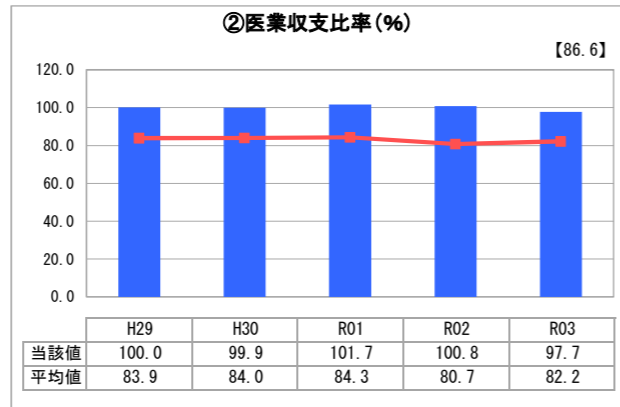
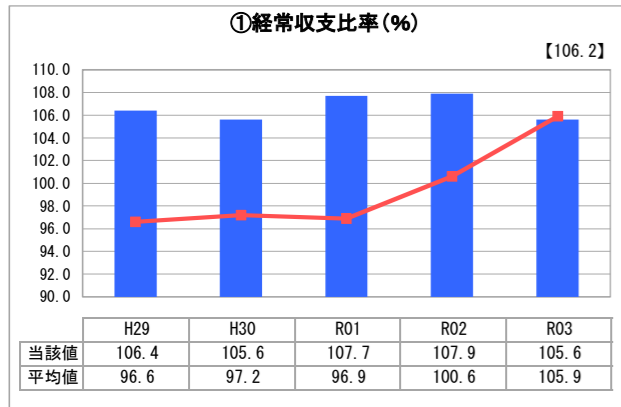
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン(放射線)診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

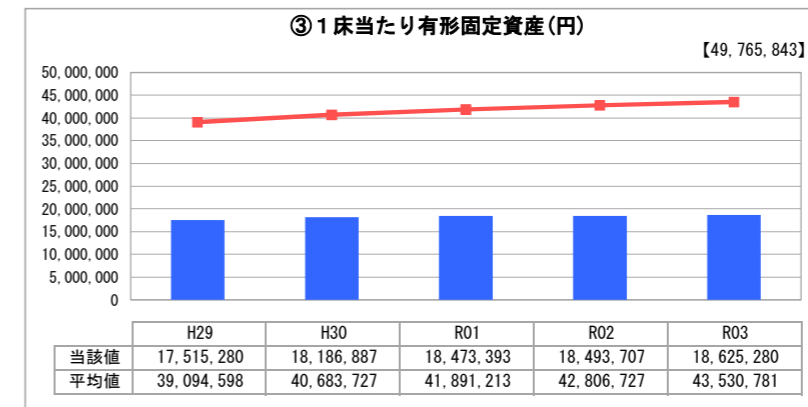
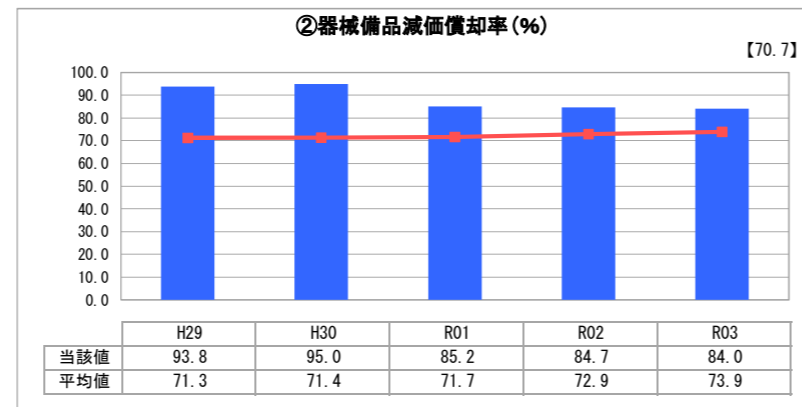
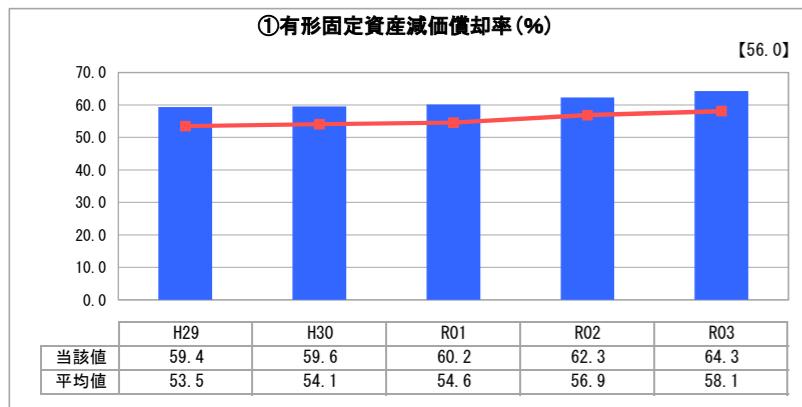
許可病床(一般)	許可病床(療養)	許可病床(結核)
-	90	-
許可病床(精神)	許可病床(感染症)	許可病床(合計)
60	-	150
最大使用病床(一般)	最大使用病床(療養)	最大使用病床(一般+療養)
-	90	90

グラフ凡例	
■	当該病院値(当該値)
—	類似病院平均値(平均値)
[]	令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組(直近の実施時期)

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	平成18
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

県より認知症疾患医療センターの指定を受け、充実した支援体制による専門的診断、治療やこころのケアを行っている。また、講演会やイベントを通じて認知症への理解・予防・対応、また患者やその家族等への理解を深めるための認知症施策を進めている。

精神病床においては、在宅や施設での対応が困難な認知症患者に対して一時的入院治療を提供し、患者が住み慣れた地域での在宅復帰を支援し、地域の認知症治療の中核医療施設となっている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

平成18年度から三豊・観音寺市医師会との指定管理制度を導入し、現在、利用料金制となっている。経常収支比率は100%を超えて黒字である。医業収支比率も100%付近を推移しており、類似病院平均よりも高い。これに伴い累積欠損金比率も該当数値なしという結果になっている。入院患者単価は類似病院平均を下回っているが、病床利用率は、毎年95%前後を維持し、外来患者単価については平均より高い。また、職員給与費対医業収益比率については類似病院を上回っており、職員配置が適正か検討するとともに、材料費を抑えるなど、支出削減等の経営努力により収益性を確保している状況にある。

2. 老朽化の状況について

建物は、建築後40年経過し老朽化が進行しており、患者の療養環境の整備が必要な状況となっている。また、医療機器等について器械備品減価償却率は低下傾向にあるものの、約85%となっており医療水準の維持・向上を図るため、耐用年数を大幅に過ぎた機器については、順次計画的に更新する。

将来にわたって病院事業を継続していくためには、施設設備の長寿命化・再整備のための中長期的な投資・財政計画が必要である。

全体総括

現在、収支は黒字で経営自体に問題はない。しかし、固定資産投資が行われていない状況を考慮すると、今後、多額の施設・設備投資費用の発生が見込まれるため、病院事業全体として厳しい経営状況となることが予想される。

地域に必要な医療を提供するために、引き続き指定管理者制度による管理、運営を行い、指定管理者とさらなる連携を図るとともに、経営の効率化、収支の効率化に取り組む。

また、公立病院経営強化プランについて令和5年度の策定を予定しており、香川県地域医療構想を踏まえ、西部構想区域内の機能分化と連携促進に向けての医療提供等ができるよう、経営強化プランの策定及び見直しを行っていききたい。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。